

# 『組織学会大会論文集』 (トランザクションズ) の執筆時に、 よく見られる間違いや追加の注意点について

組織学会大会委員会トランザクションズ編集委員会  
2022年2月作成

## はじめに

- トランザクションズ執筆の際には、「執筆要綱」や「チェックリスト」の記載事項をよく読み、その決まりを遵守してください。また、原稿は、規程のテンプレートを使用したワードファイルにて提出してください。
- ここでは、そのうえで、投稿された論文によく見られる間違いや、当編集委員会に寄せられる疑問点を取り上げます。
- 決まりが十分に遵守されていない（**誤りが5か所以上ある**）と判断される場合、リジェクトされることもあります。ご注意ください。

## 本文部分について（１）

### 1-1：

本文の日本語は、MS明朝10.5pt で書きますが、外国語文献の引用などの本文内の英語表記は、Times New Romanの10.5ptにします。

### 1-2：

複数の著者による外国語文献の引用の際、文章中と括弧内では表記が変わります。

例) 文章内の場合→Mather and Knight (2006)によれば、…。

括弧内の場合→…との研究もある (Mather & Knight, 2006) 。

## 本文部分について（２）

### 1-3：

日本語の文献を引用する場合も、参考文献と統一した記載にします。

例) 誤→ 中尾(2015)に基づく

正→ Nakao(2015)に基づく

### 1-4：

括弧内の引用文献の順番は、第一著者のアルファベット順にします。印刷中の文献は、最後に置きます。

例) ことが示されている(Miller, 1999; Shafranske & Mahoney, 1998; Yamada, 1995, in press)。

## 本文部分について（3）

1-5：

複数著者の文献を引用する場合、初出から、「〇〇 et al.」とします。

※複数名でも2名の場合は、「&」もしくは「and」で結びます（1-2を参照のこと）。

1-6：

参考文献に入っているものはすべて、本文でも引用されているか、確認します。

※「検索」機能を使って、漏れがないか確認してください。

## 本文部分について（4）

1-7：

文章中の句読点は、「,」 「.」ではなく、「、」 「。」を用います。

## References部分について（1）

- APAスタイル（最新版）に則って記載します。

### 2-1：通常の英語論文の場合

Tsui, A. S., Egan, T. E. & O'Reilly III, C. A. (1992). Being different: Relational demography and organizational attachment. *Administrative Science Quarterly*, 37(4), 549-579. <https://doi.org/10.2307/256368>

&の直前のカンマを  
忘れずに

巻はイタリック、号はその  
まま、巻と号の間にスペー  
スは入れない

## References部分について（2）

### 2-2：日本語著書・論文の場合

#### < 著書 >

Nishida, K. (1976). *Waku mochibeshon kenkyu* [Research on work motivation]. Hakuto Shobo (in Japanese).

著書のタイトルはイタリックかつローマ字  
(ヘボン式)で。たとえ英語に直せる単語  
(例: work)でも、ローマ字書き(例:  
waku)で書きます

英語に翻訳したタイトルは、イ  
タリックにはしません

#### < 論文 >

Tanaka, M. (2019). Soshiki rutin ron no chokujiteki sokumen ni tsuite: Naze "chokujiteki osutenshibu" na no ka? [The ostensive aspect of organizational routines]. *Fukuikenritsudaigaku keizai keiei kenkyu* [Fukui Prefectural University economic and business studies], 40, 1-17 (in Japanese).

日本語のジャーナルに正式な英語名がな  
いか、必ず確認してください  
(ほとんどの場合、あります)

※ヘボン式はこちらを参照してください。 <https://www.ezairyu.mofa.go.jp/passport/hebon.html>

## ヘボン式で間違えやすい箇所の例

- 長音記号を使わない → (誤) tōfu (正) tofu  
母音も間に入れない → (誤) toufu
- ティ → (誤) thi (正) tei
- ヴィ → (誤) vi (正) bi もしくは bui
- B、M、Pの前の「ん」は、nではなく、mを使う  
例) 新聞 → shimbun

## References部分について (3)

### 2-3：翻訳書の場合

#### <一冊まるごと>

Robbins, S. P. (2009). *Soshiki kodo no manejimento* [Essentials of organizational behavior]. (H. Takagi, Trans.).  
Daiamondo sha. (Original work published 2005)

原著の出版年はこのように記載し、本文に引用する場合、原著・翻訳書両方の出版年を書きます。  
例) Robbins (2005/2009)によると・・・

翻訳者名は、First nameの頭文字、Family nameの順にし、カンマを挟んで、Trans.と記載します

#### <著書の中の1章>

Pfeffer, J. (1997). 日本語の章のタイトル (上記のようにローマ字で。ただしイタリックにはしない)  
[Incentives in organizations: The importance of social relations]. In O. E. Williamson (Ed.), *Gendai soshiki ron to banado* [Organization theory: From Chester Barnard to the present and beyond] (pp. 72-97). (H. Iino, Trans.).  
Bunshindo. (Original work published 1990)

編者名も、First name, Family nameの順番で並べ、括弧内は(Ed.)もしくは(Eds.)などのように最初の文字は大文字で書きます

括弧書きの原著情報の前にピリオドをつけます

## References部分について（4）

### 2-4：原著が英語以外の論文・著書の場合

- 原著を引用文献として使うときには、原文のタイトルを書き、ブラケット（[]）内に英語訳を記します。
- 英語訳の論文・著書を出典として利用した場合には、英語版を引用文献とし、ブラケットを用いず、英語のタイトルを書きます。

## Abstract部分について

揃え方がいろいろと変化するため、気を付けてください。

- 中央揃え→タイトル、報告者名、所属、メールアドレス
- 両端揃え→Abstract（「**Abstract:**」の部分のみ太字）
- 左寄せ →Key Words